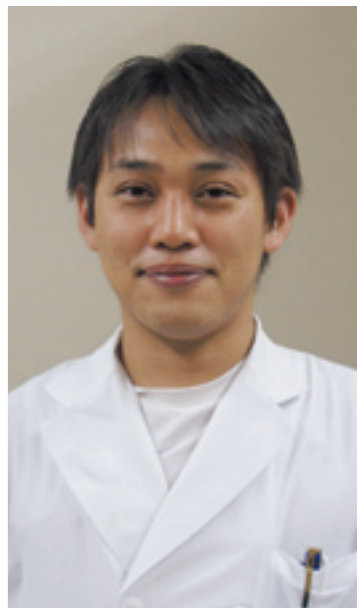


# 大切な子どもの歯と健康を

## 守るために

### 食育の意義を歯科的立場から考える



大学院口腔科学教育部  
口腔科学専攻 博士課程2年  
北村 尚正 きたむら たかまさ

談コーナーなどを行っており、多くの親子が相談にやっています。

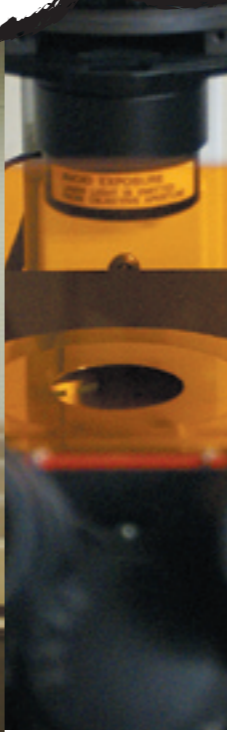
#### 「わいわいがやがやと」

「三留先生はとても明るくて、笑顔がたえない姿が印象的です。コミュニケーションもとりやすく、質問や相談にはしっかりと応えてくださ

な組織の細胞に分化する能力を持つ細胞（幹細胞）を利用して疾患の再生医療に利用できないか、といった研究を行っています。

食育が子どもの心身の成長・発育に重要であることは、経験的に認識されていますが、北村さんたちの研究が進めば、食育の意義が科学的に解明されていくことでしょうか。また教室員は大学内の研究のみではなく、県内の子ども口腔の健康管理を行うために、屋外に出てフィールド研究を積極的に行っています。最近、保護者の口の中の状態が、子供のむし歯などに関係していることが示唆され、これらの解明に取り組んでいます。

また「出産や育児に夢の持てる社会づくりを目指す次世代育成支援イベント・おぎやと21」（はぐくみ徳島実行委、徳島新聞社主催）にも毎年参加。幼児の検診や歯みがき指導、妊婦さんの口腔内検診、相



80歳になっても20本以上の歯を残すことを目指す8020運動。歯の健康が全身の健康に結びつくことから、厚生労働省や日本歯科医師会が推進しているものですが、そのために大切なのが子どもの頃から口腔環境のケアです。これの土台にはしっかりと噛み、しっかりと食べるという目的意識があり、このことが近年、よく話題に取り入れられている。食育、につながっていきます。

三留雅人教授を中心とする小児歯科学分野では、子どもの歯が生える前から大人の歯になるまでの口腔環境がもっともダイナミックに変わるこの大切な時期に、口腔の成長・発育が身体に与える影響についての研究に取り組んでいます。

北村さんから大学院生はよく噛んで食べることや規則正しい食生活が全身、特に脳にあたる影響を研究したり、脱落して不要となる乳歯の中から採取した幹細胞（さまざまやつてます）

こんな人柄を反映してか研究は、実験中やミーティング中でもそれぞれ自分の意見やアイデアをどんどん出し合い、和気あいあいと、自由な雰囲気で行っています。他の人の研究テーマにも積極的に関与して、助け合いながら研究を進めていくのも特徴です。さらに、花見やコンパなどのコミュニケーションのためのイベントも大事にしています。



「とにかくわいわい、がやがやとにぎやかです。」と、今年はレクリエーションの担当に当たっている北村さん。次のイベントを考案中です。

